

[認知症対応型共同生活介護用]

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年6月16日

作成日 平成19年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4075300261
法人名	有限会社 憲信会
事業所名	グループホーム みずき
所在地	福岡県鞍手郡小竹大字新多 1418 (電 話) 09496-2-8100 (FAX) 09496-2-8101

評価機関名	特定非営利法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古一丁目6-46		
訪問調査日	平成19年5月12日	評価確定日	平成19年6月25日

【情報提供項目より】(19年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人				
職員数	15人	常勤	14人	非常勤	1人	常勤換算	13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	0円
	または1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要(4月25日現在)

登録人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	3	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	66歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小竹町立病院・飯塚病院・田川市立病院・もち浜クリニック・古賀歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置したグループホームみずきは地域密着型サービスとして、自治会役員の方々とも日頃より関わりを持ちながら、回覧板でグループホームの行事や運営を地域の方々に広報している。近隣の小学校と頻回に交流があり、グループホームで食事をともにしたり小学校に出向いて園芸支援しており、今後は小学校の運動会・授業参観等の行事への参加もお願いしたいと管理者は話している。入居者の健康管理では、急変時にいつでも対応できる医療連携体制や協力歯科医で毎月口腔ケアを実施している。「今日を楽しく、明日への希望を持って・・・」入居者が生活できることをホームの理念として掲げているので、行事参加費用は徴収していない。管理者は同業者間の情報や意見交換で介護の質の向上に努めたり、職員の離職を少なくするためにストレスの解消等に親身になって対応している。そして、法人事務長も職員の悩み等を充分に聞くなどのスーパーバイザーの役割を担い、入居者と職員の馴染みの関係を大切にしている。これからも入居者を主役とした家族的なグループホーム作りが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念は大きな字体で見易い位置に掲示されている。介護教室開催はないが、地域密着型サービスとして月1回認知症等の相談日を設け、電話や来所による相談を受けている。防犯のため、施錠していたが、自由に入出入りできるようにセンサーを設置し、入居者1人での外出には見守りをする等の対応をしている。会議録の作成や年間研修計画を作成し実施している。広いスペースに語らせる場所としてソファを設置し提供している。改善シートによる改善目標を立て実行しているが、継続項目もあるため根気良く実施をお願いしたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票の作成時、改善シートをチェックし改善に取り組み、その過程での気づき等をスタッフ全員で話し合い自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政・地域自治会・家族・入居者が参加している。会議ではホームの現状や行事内容を報告し理解と協力を得るようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	日頃より家族に対してはみずき新聞や訪問時を利用し現況報告をする中で、情報を提供し必要な意見や苦情などを聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りや笑顔での対応で、聞き取れた内容は速やかに対処したり運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校と頻回な交流があり、ホームで作ったご汁を一緒に食べたりしているが、小学生から入居者は元気をもらったり、ホームから小学校に出向き園芸援助をしている。自治会に加入したことで地域の人々との交流ができ、散歩中には気軽に声を掛けられたり、ホームの行事である夏祭りなどの催しには多くの参加がある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の一人として入居者が安心して楽しく生活でき、家族もそれを理解し職員に安心して委ねられるホームになるように理念を具体化し、「職員の誓」を作り上げている。理念は玄関に大きく掲示している。	○	パンフレットに「介護保険施設です」と記載されているので、パンフレット、重要事項説明書、運営理念等の訂正をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日々、目の付く所に掲示し常に確認することで職員の意識の向上を図っている。また、ミーティングや職員会議・勉強会で、具体的にケアを統一している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生がクラス全員でボランティアとして訪問があり、ホームからは園芸指導等で学校へ出向いている。自治会に加入しているので、毎月回覧板にみずき新聞を載せ、夏祭りの参加を求めたり、ホームの活動内容を理解してもらえるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後の改善策についての話し合いで、ケアの慣れに気づかされ、改善計画シートを作成し、改善に取り組んでいる。今回の自己評価も何度と話し合いをしながら、全員で取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を自治会長2名、広域連合1名、行政1名、相談員1名、老人会1名、家族1名、入居者1名のメンバーで2ヶ月ごとに開催している。そこで日頃の状況報告と今後の取り組みを説明し、推進員の率直な意見を運営の参考に行っている		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者にホームの実情などを伝えたり、みずき新聞を行政の窓口にかけてもらったりしている。民生委員の視察研修(30名)の受け入れをしている。	○	ホームで認知症相談窓口を設けているので、経過記録を整備し相談内容を行政担当者とともに検討していただきたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	入居時等に本人や家族に制度の説明をするために、研修に参加したり学習会を行っている。パンフレットの整備もあり、対象者には制度について説明している。	○	制度利用に費用がかかるため制度を活用しにくい面はあるが、対象者やその他に説明した内容を議事録として整備願いたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしの様子、健康状態は毎月発行しているカラー写真入りのみずき新聞を家族等に送付したり、家族の訪問時にも報告している。毎月の利用請求書の郵送時に、職員の異動や金銭出納を報告し、出納帳に家族、職員の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱の設置があり、事務所に苦情申し立て機関等を掲示をしている。家族の訪問時には意見等の表出の声かけを行い、入居者の健康状態の変化は早急に対応している。	○	重要事項説明書に行政機関の苦情相談窓口の連絡先の明記が求められる。家族からの意見が出ないとの事であるが、意見を聞く体制として家族会の設立の検討をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を出さないように、職員の不満や意見は随時聞き、必要な時話し合いの場を持っている。又ユニット間で職員の異動が有る時は事前に伝えている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	年齢・男女などの区別は無く、法人の理念を理解できる人を採用条件にしている。職員が能力を発揮しやすいように勉強会や日々のミーティングにおいて学びの機会や意見を述べる機会を設けている。交代で休息できるように休息の場を確保している。ストレスの対応にはスーパーバイザーである事務長が当たっている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権教育としての取り組みは無いが、日頃から理念を踏まえたケアを実践できるように学習会を行っている。人権に関するパンフレットの整備が無いが、身体拘束虐待防止マニュアルは掲示している。	○	今後は行政が主催している(年2回)人権研修会に職員の参加を促し研修内容等の研修記録を整備し、人権教育・啓発活動実施に役立てて頂きたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な学習会を全員参加で行っている。各自の能力や適正を考慮して担当制を導入し、計画作成担当者と共に介護計画を作成している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年までは全国グループホーム協議会に加入していたが、今年には加入していない。他のホームの見学や管理者同士の意見交換はしているが、本年度中に職員も町内のグループホームの意見交換会や学習会に参加予定である。	○	同業者の意見交換等がケアの質の向上になり、退職者を出さないことにつながると考えられるので是非お願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期段階から希望者の見学や職員による訪問で、馴染みの関係を作るように配慮している。入居当初は本人の希望を大切に、帰宅願望がある場合には、家族と本人を交え納得のいくような話し合いをしながら、馴染みの関係作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人たちのできる事はして頂き得意分野は教えを請い、その人らしさや健康な能力の発揮を支援している。職員は入居者に寄り添いながら、共に支え合うとの意識を持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりによるモニタリングで、入居者や家族の意向を把握するようにしている。意思の疎通は困難な入居者にも日頃の言葉や表情から理解できるように努力している。	○	第3表の週間予定表は個別的な計画が求められる。入居者の希望によるレクリエーションでも、参加・不参加の意思の表示を重視していることを、本人や家族が理解できるように説明をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族や本人からは日頃の関わりの中で、思いや意見を聞くように努めている。介護計画は作成者を中心に担当者やメンバー全員が意見を出し合い意見交換が出来るようにしている。	○	第1表に記載された本人・家族意向は、フェースシート・アセスメント表と連動するので、フェースシート・アセスメント表にも明確な記載が望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い状態の変化に対応している。又ご本人やご家族から要望や意見があった時にその都度対応している。家族の訪問時や支払日には介護計画を説明し了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を活かして、急変時には主治医を通じて協力医療機関へ24時間いつでも連絡をお願いすることで、本人の健康管理を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居当初より本人家族に、医療連携のためホームでかかりつけ医を決めている事を説明し納得してもらっている。24時間体制で、入居者に異変があればかかりつけ医師が直接協力医療機関へ病状を報告し、受診・入院などの調整をしている。その結果は生活記録や業務日誌に記載している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに対する指針が定められており、主治医よりご家族に現状の様子や今後の予想など説明し、ホームでの出来る限りの生活支援方法を家族・スタッフと話し合い、方針を共有している。	○	医師、家族、職員の話し合いの議事録の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規程や情報の利用目的を明記した書類の整備や掲示がない。利用者対応マニュアルを掲示し、日々の言葉づかい、入居者の尊厳やプライバシーを傷つけない対応を日頃より徹底して行っている。	○	個人情報保護に関する規程や情報の利用目的を明記した書類の整備とともに共有空間に掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、入居者の意思を尊重し、その日のご本人の気持ちや体調に合わせて声掛けをしている。業務や計画を優先する事は無く、個別性のある生活支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けは出来る入居者と一緒に行い、職員は感謝の気持ちを伝えている。各入居者に役割を作り、ホームにとってそれぞれが必要な人である事を感じ取って頂く様にしている。食事は同じ物を同じテーブルで団欒しながら食べている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や回数は要望が少ないが、毎日入浴できるように体制を作っている。夕方に入浴の声掛けはするが、希望は無い。入居者の習慣の把握までは出来ていない。拒否者に関しては中々難しい問題を抱えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族から趣味や生活歴などの情報を得て、出来る事、したい事を本人を交えて検討している。菜園を楽しみにしている方や毎日の家事手伝いを当たり前のようにしている方など役割作りに配慮している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や気分によりその日の話し合いで決まった内容などは実行がむづかしいが、毎月2回は外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない場合の危険性と掛けた場合の弊害を良く話し合い、掛けないケアに取り組むことを職員全員の同意の下で行っている。玄関にセンサーを設置し、入居者の外出に対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的実施し、避難場所としているホーム前の広場に誘導している。避難経路図は事務室に掲示している。緊急に近隣住民の皆様に協力が必要な事態が起きた時のために、緊急連絡網を区長さん協力の下で作成している。備蓄はお茶の確保をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事は徹底して管理し、摂取量を記載している。個人の状態や希望により、主食の種類変更やキザミやミキサー・トロミ食で対応している。嗜好等や食事時間、回数にも配慮している。体重測定は月に2回行い体調管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日ごろよりホールや洗面所・トイレは生活感のある空間作りとして、季節の花や手作りこいのぼりのタペストリーを飾り、季節に合った作品を作ったり、飾ったりしている。台所は対面式なのでホール全体が見渡せ、入居者の状況に応じた対応や会話をしている。また、排泄時の消臭に配慮しており、不快な臭いは無い。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの家具や家族の写真、使いなれた日用品、好みに応じたベッド、布団、仏壇、目覚まし時計などがあり、入居者のその人らしい居室づくりの工夫がある。広いデッキテラスにも椅子とテーブルが置かれ、入居者が気の合う仲間とひと時を語り合う居場所の確保が出来ている。		